

世界陸上・デフリンピック ビジョン2025 レガシーブック(概要版)

- 2025年に東京で開催された世界陸上とデフリンピック。多くの観客で埋め尽くされた会場は、かつてない一体感に包まれ、子供たちをはじめ多くの人にスポーツの喜びや楽しさを届けました。また、多様な人々がスポーツを通じてつながる姿は、互いを認め、尊重し合う共生社会への歩みを加速させました。
- 東京都はこれまで、両大会の開催を活力に、スポーツの力で東京の未来を切り拓くため、「ビジョン2025」等を策定し、様々な取組を推進してきました。
- 本書は、両大会を通じた取組や、その成果等を取りまとめ、レガシーとして未来の東京へどのようにつなげていくのかをお示ししたものとなります。

1 VISION2025 –両大会を通じた取組とその成果–

推しスポーツProject

世界陸上・デフリンピックの開催を機に、スポーツを「する・みる・支える・応援する」の視点から、様々なスポーツに親しむ機会を創出



- 両大会で気運が盛り上がる中、多くの人が様々なスポーツに参加
- スポーツへの継続的なかかわりを促すことで、ウェルビーイング向上に寄与



参画人数

約300万人※

都や関係団体等のスポーツイベント等に参加した人数
(R6.4～R7.11月)

※世界陸上・デフリンピック入場者含む
※都立スポーツ施設の利用貸出事業の利用者は含まない

子どもたちが夢を見る

子供たちが夢と希望に触れ、学び、成長できるよう、大会への参画機会を幅広く創出



- 国際大会ならではのスポーツ体験等スポーツへ触れる機会を幅広く創出



- 臨場感あふれる会場での競技観戦に多くの子供たちを招待



主な成果

約9.9万人

(引率者含む)
子供たちを観戦に招待

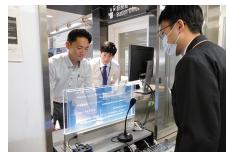
みんながつながる

「いつでも・どこでも・誰とでもつながる街・東京」を目指し、情報バリアフリーを推進



- デジタル技術や手話言語対応等を充実させ、大会の情報保障を推進
- UC※技術の都有施設での活用、鉄道駅への導入支援等により社会実装を促進

※UC:ユニバーサルコミュニケーション



主な成果

6社172駅

鉄道駅にUC技術導入
(令和6年度)

世界の人々が出会う

「何度も訪れたくなるTOKYO」を目指し、両大会を契機に、東京の多彩な魅力を発信



- 両大会に合わせ文化プログラムを実施し、多くの人に東京の芸術文化をPR
- 東京の魅力を感じられる場所をマラソンコースに設定するなど、様々な場面を通じて効果的にプロモーション



主な成果

約11.3万人

文化プログラム
「TOKYO わっしょい」
参加者

みんなで創る

多くの人が大会に参画し、スポーツの力を実感できるよう、参画を促す取組を幅広く展開



- 東京2020大会のレガシーも活用して募集を行い、多くのボランティアが活躍



- 気運醸成イベント等により大会への関心を高め、多くの都民の参画を促進



主な成果

約6,000人

大会を支えたボランティア

未来へつなぐ

両大会が「未来へつながる大会」となるよう、持続可能性や多様性に関する取組を推進



- 持続可能な大会運営を通じ、SAF※やAirソーラーなど環境先進技術の普及を促進

※SAF:持続可能な航空燃料



- 大会やイベントを通じて多様性の大切さを発信し、理解を促進



主な成果

約11,300L

世界陸上と連携した
回収キャンペーンで集まった
SAFの原料となる廃食用油

2 TOKYO FORWARD 2025 –両大会を通じて創出されたレガシー–

レガシー

こどもたちが “スポーツの力”を実感

- 競技観戦や国立競技場での陸上体験など、かけがえのない体験
- ロゴ制作や大会運営など、大会の様々な場面に参画
- 様々なスポーツ体験や事前学習での学びを通じ、スポーツの楽しさを実感・理解を促進



UC技術や相互理解を通じ、 共生社会への歩みを加速

- UC技術の活用・社会実装の促進
- 啓発イベントやサインエールの普及等
スポーツを通じた相互理解
- 体験等を通じた共生社会への理解
- 国際手話人材を育成、大会で活用



今後の国際スポーツ大会の 新たなモデルに

- 東京2020大会の経験や運営ノウハウの継承、蓄積
- ガバナンス確保に向けた取組
- 各局事業と連携した都政課題の解決
- 都立スポーツ施設の活用
- 都民の参画、全国への波及効果



©(公財)東京都スポーツ文化事業団

今後の取組の方向性

“スポーツの力”で人々がつながる、活力あふれる東京の未来を実現していく

- 子供たちにスポーツへの参画・観戦・交流の機会を多面的に提供し、心身の健全な発達につなげていく
- UC技術をスポーツイベント等で積極的に活用するほか、都有施設への配備や公共施設等への導入支援により社会実装につなげていく
- ノウハウ・経験等を今後の様々なスポーツ大会の運営に活かし、都市のプレゼンス向上や魅力発信など国際スポーツ大会の持つ価値を根付かせ、都市の更なる発展へ

(参考) 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピック

■世界陸上 <2025年9月開催>



東京2025世界陸上
大会ロゴ

トップアスリートが集う陸上競技の祭典。世界最高レベルの熱戦がスポーツの喜びや楽しさを届けるとともに、全世界に都市の魅力を発信

数字で見る 東京2025世界陸上

193か国・地域
+難民選手団
1,992人
参加国・アスリート数

約62万人
総入場者数

7億回超
70万人増
動画視聴・フォロワー数
(World Athletics SNSアカウント)

7,977万人
大会期間9日間の
累計視聴人数(TBS)

■デフリンピック <2025年11月開催>



東京2025デフリンピック
大会エンブレム

デアスリートによる国際総合スポーツ競技大会。障害の有無などにかかわらず、誰もがスポーツを楽しむ素晴らしさを伝えるとともに、共生社会への歩みを加速

数字で見る 東京2025デフリンピック

79か国・地域等
約2,800人
参加国・アスリート数
※2025年12月時点

2,481媒体
3,976人
全競技会場
メディア取材数

約33万人
総入場者数
競技会場・デフリンピックスクエア

約324万回
競技動画再生数
※2025年11月27日15時時点